

M

タイガー大越との共演により  
エリントン・ナンバーに新たな息吹を注ぐ

I

Z

U

H

Photo by  
Morimasa Suda  
Ken Yuhara ©



札幌を拠点に、クロスオーバーな活動を展開しているシンガーのMIZUHO。深い感性をたたえた豊かな表現と確かなテクニックに定評のある彼女。そしてこの度、これまで共演を重ねているタイガー大越とともにエリントン・ナンバーにアプローチした。豊かな輝きと生命力に満ちた彼女の歌声は、タイガーによる奥深く斬新なアレンジという翼を得て大きく飛翔する。 ●市川正二

MIZUHOという女性歌手の存在を強く意識したのは、08年のセカンド・アルバム「翼-Tsu-ba-sa」の冒頭に入っていた〈ソラン節〉だった。(ソラン節)といえは、かつてビリー・ハーバーが「ラヴァーフッド」[77年]で取り上げていて、同時にそんな音のことも懐かしく思い出した。

で、そのMIZUHOだが、そのあとサード・アルバム「スターズ・アンド・アムーン」を2010年に発表。この4月には4作目となる「ディア・デュク」が発売となる。デュク・エリントンの名曲9曲を取ったエリントン曲集。アレンジ及び共演はタイガー大越。タイガーとのコラボレーションはこれまでの作品でもおなじみだ。そして両者を結ぶ契機はボストンのパークリーヴス。「タイガーさんとはとてもエキゾチックな太極のような人で、スーパースターという第一印象でした。カラフルな引き出しがあって、大きな海のようなでもあり、繊細な絵画のようでもあり、それとはとても違って個性にもなります」

それにしても今回、エリントン曲集というのは異なっていた。エリントンはジャズの代名詞でもあり、コンポーザーとしても第一人者。それだけにエリントン曲集はこれまで数多く作られている。歌物に限ってもエラ・フィッツジェラルド、サラ・ボーンといった大御所、コーラスではランバート・ヘンドリックスもロス、など数枚挙げれば足りない。はっきりいって新人歌手にとってもエリントンは少々敷居が高い。それでもあえてエリントンに挑んだ勇気は拍手だが、それだけではない。ちゃんとした結果を残した点があっけだ。オープニングの〈スイングしなげり〉(意味ないわ)。おなじみの曲だが、なにかが違う。クワイプを物の長さに引き延ばして歌っているところが実にユニークであり、お洒落であり、新鮮。こういった仕掛けは随所に施されている。「タイガーさんとのこれまで2枚のアルバムでは、日本の曲や映画

音楽など色々なテイストの曲を取り上げました。今回は、ジャズの古典的なものをテーマにしたい、という点で意気を含みました。エリントンの曲は歌ってみたいと、なぜかずっと劇本でも自然に決まりました」

選曲に関しては？  
「自分の好きな曲に加え、聴いてみたい方にとって馴染みのある曲も。(イン・ア・センチメンタル・ムード)や〈ムード・インディゴ〉(ブレイブド・トゥ・ア・キス)のようなロマンチックな雰囲気が特に好きです」

本作のキー・ポイントであるアレンジについても聞いてみよう。〈キャラヴァン〉は意気をついたファンク調だし、(A列車で行こう)と〈ドント・ゲット・アラウンド・マッチ・エニソア〉はメロレーではなくサウンドワッチ形式で合体させているし、とにかく斬新なアレンジに驚かされる。こういう新しいアレンジで歌うことは、歌手にとってどんな感じなのだろう？

「最初にアレンジをいただいたときは、びっくりでした。タイガーさんが斬新なのは予想していましたが、まさかでも、さすがにやられた!と思いました。そういう素晴らしいアレンジで歌うのは私にとっては快感です。元々声を楽器的に使うのは、楽しくて好きなことなんです」

(イン・ア・センチメンタル・ムード)は2006年のファースト・アルバムのタイトル曲でもあるが、今回は大正琴を使った独特のサウンドが印象的。もちろんタイガーのソロも堪能できる。トランベッターとしてのタイガーは有名だが、それだけでなく、アレンジャー/プロデューサーとしての素晴らしい才能も発揮したのがMIZUHOとのコラボレーションであり、その中でも彼女は特に傑出した作品だと実感する。仕掛けという点については、(ブレイブド・トゥ・ア・キス)や〈キャラヴァン〉では、コンボイとの共演なのにもってビッグバンドと共演しているかのような豪華なイメージが楽しめる。楽器とヴォーカルを4声にアレンジしてオーバーダビングしているからだ。また、そこに登場するギター・ソロ(ランディ・ジョンソン)はジャズ・ギターというよりソウル系のテイストなのだ。そのあたりに関しては、タイガーの言葉を聞いてなるほどと納得した。

タイガー曰く、「アレンジには時間がかかりました。耳慣れた曲

素晴らしいアレンジで歌うのは私にとっては快感です。  
元々声を楽器的に使うのは、楽しくて好きなことなんです(MIZUHO)